

「あの人も男？女？どっち？」  
人の目が気になつて、  
いつもトイレを我慢している



『誰でもトイレ』が  
もっとたくさん  
あればいいのにさよ

ちょっと中性的な見た目の方は、男女、どちらのトイレに入っても、怪訝な目で見られたり、他の利用者から注意されてしまったりすることがあります。ある調査(\*)では、トランスジェンダーの65%がトイレにストレスを感じており、10代のトランスジェンダーの23%が「学校や職場ではトイレを使わない(我慢する)」と回答しています。こうしたストレスもあってか、膀胱炎などの排泄障害を経験している人は25%、非常に高率でした。トイレに行けなかったら、学校で勉強したり、職場で仕事をしたりする、日常生活自体が困難になります。男女共用の「誰でもトイレ」を増やすなど、公共施設や職場で、トランスジェンダーも使いやすいトイレ環境を模索する動きが始まっています。

(\*LIXIL、特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ 2015 調査)

このパネルは、平成28年度 淀川区LGBT支援事業の一環として、大阪市内のLGBT当事者の声を集めて制作したものです。LGBTは、以下の4つの単語の頭文字であり、ここでは性的指向や性自認におけるマイノリティ(少数者)の総称としています。

**L** レズビアン 同性を好きになる女性 **G** ゲイ 同性を好きになる男性 **B** バイセクシュアル 性別にかかわらず、同性を好きになることもあれば異性を好きになることもある人 **T** トランスジェンダー 出生届の性別とは異なる性別のあり方を望む人

LGBTは人口の5~8%程度とされていますが、学校、職場、地域など、自分の周囲にカミングアウトできない人も多く、見えにくいマイノリティです。このパネルは、そうした人たちの声を可視化する目的で制作しました。笑顔の裏にも見えにくい「困りごと」を抱えている人たちが自分の身の周りにもいるかもしれないと、想像しながら見てほしいと思います。

